

## 初出一覧

本書に収めた諸論考は、拙著『宮沢賢治 幻想空間の構造』（蒼丘書林、平6・10）、『宮沢賢治という現象』（蒼丘書林、平14・5）をもとに再編集したものである。収録にあたっての筆者の意図は、次の三点である。

- 一、修士論文『宮沢賢治研究』（早稲田大学教育学研究科提出、平4・3）以後に執筆した論考であること。
- 二、本書の副題として示した『文学における宗教と科学の位相』に沿う内容を含むこと。
- 三、伝記・年譜的研究に関しては、その資料的価値を鑑み、第二の基準の例外として扱うこと。

## 序論

《心象スケッチ》の目的 田中智学とウィリアム・ジェームスの視点から

日本近代文学会一九九四年度秋期大会の口頭発表用に書き下ろしたもの。発表原題は「心象スケッチの目的」

## 第一部 詩研究

### 第一章 「青森挽歌」研究・1

《心象スケッチ》の時と場所 再構成された体験

原題は「詩『青森挽歌』における《心象スケッチ》の時と場所 再構成された体験

」（「高知大國文」第30号（高知大学国語国文学会、平12・3）

### 第二章 「青森挽歌」研究・2

「ヘッケル博士！」の解釈をめざして 唯物論と唯心論の狭間で

原題は「詩『青森挽歌』 試論 『ヘッケル博士！』の解釈をめざして」（「人文科学

研究」第7号、高知大学人文学部人間文化学科、平12・7）

### 第三章 「北いつぱいの星ぞらに」研究・1

《異の空間》と《銀河の窓》の意味するところ 科学的宇宙観と仏教的宇宙観

原題は「『北いつぱいの星ぞらに』 試読」（「日本近代文学」第49集、日本近代

文学会、平5・10）

### 第四章 「北いつぱいの星ぞらに」研究・2

《一七九》草稿群の成立と解体 転生する《心象》

「国文学」第41巻7号（学燈社、平8・6）

## 第二部 童話研究

### 第一章 「銀河鉄道の夜」研究・1

銀河世界の成り立ち 神話（宗教）・科学・心理

書き下ろし。ただしその一部には「宮沢賢治『教材絵図 分子・原子』の謎」（「高

知大國文」第32号、平13・12」と、『真空溶媒』論 溶媒の思想 「（「解釈と鑑賞」平成13年8月号、至文堂）が取り込まれている。

## 第二章 「銀河鉄道の夜」研究・2

《ジョバンニ》の行方 日蓮主義による世界統一の夢

『第二回宮沢賢治国際研究大会記録集』（宮沢賢治学会イーハトーブセンター、平14・3）

## 第三章 「銀河鉄道の夜」研究・3

「たつた一人の神さま」というディレンマ 賢治と宣教師ミス・ギフォード  
書き下ろし。

## 第四章 「銀河鉄道の夜」研究・4

よだかからジョバンニへ 《よだか》の系譜

「《よだか》の行方 『南京の基督』・『万延元年のフットボール』を視座に」  
（「論攷宮沢賢治」第2号、中四国宮沢賢治研究会、平11・3）の第一章「隠された肉体」と、「『北上川は気をながし』」における兄妹の構図 よだか・かはせみ・はちすずめ 「（『春と修羅』第二集研究』宮沢賢治学会編、思潮社、平10・3）を合体させ、改稿・補筆したもの。

## 第三部 比較研究

### 第一章 坂口安吾小論 《救いのなさ》ということ

原題は「坂口安吾小論 宮沢賢治との通底性において」 （「高知工業高等専門学校学術紀要」第41号、平9・1）

## 第二章 遠藤周作小論 神の温もりと神秘主義

書き下ろし。

## 第三章 大江健三郎小論 反転の思想

「《よだか》の行方 『南京の基督』・『万延元年のフットボール』を視座に」  
（「論攷宮沢賢治」第2号、中四国宮沢賢治研究会、平11・3）の第三章「生かされる肉体」を前半部に用い、後半部はあらたに書き足した。

## 第四部 周辺研究

### 第一章 童話集『注文の多い料理店』発刊をめぐる 発行者・近森善一の談をもとに

「言語文化」第13号（明治学院大学言語文化研究所、平8・3）

## 第二章 詩集『春と修羅』の同時代的受容 土佐の詩人・岡本弥太の宮沢賢治理解

原題は「土佐の詩人・岡本弥太の宮沢賢治理解 測定された一つの宇宙（新資料を踏ま

えて）「（「論攷宮沢賢治」創刊号、中四国宮沢賢治研究会、平10・3）

### 第三章 《宗教的欲求の時代》と賢治受容 宮沢賢治生誕百年の喧騒

原題は「平成八年国語国文学会の展望」（「宮沢賢治」〔「文学・語学」第157号、全  
国大学国語国文学会編、平9・11）

### 第四章 「批評空間」における宮沢清六氏批判の言説 宮沢賢治の法華経信仰と国柱会

原題は「宮沢賢治の法華経信仰と国柱会 宮沢清六氏追悼によせて」（「注文の多い  
土佐料理店」第4号、高知大学宮沢賢治研究会、平13・7）

\*原則として宮沢賢治作品の引用は、すべて『新校本宮沢賢治全集』（平7・13）に拠  
った。ただし、第一六巻「補遺・資料編」（「年譜」を含む）に関しては、あえて用いる  
ことを避けた。すでに、拙著『宮沢賢治という現象』『周辺研究』で発掘・紹介した資料  
が一部取り入れられているためである。

\*すべての引用文献について、旧字は新字に改め、ルビを一部省略した。

## レフリー付き論文

筆者のこれまでのレフリー付き論文は以下の通りである。

- 「『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』試論 鬼神の棲む空間」 「『日本文学』第41巻第2号、日本文学協会、平4・2」
- 「『サガレンと八月』論 民話的構造に仮託したもの」 「（『宮沢賢治研究annual』第2巻、宮沢賢治学会、平4・3）」
- 「『オホーツク挽歌』と『サガレンと八月』とし子からの通信」 「（『国語と国文学』第69巻第9号、東京大学国語国文学会、平4・9）」
- 「『「北いつぱいの星ぞらに」』試読 《異の空間》と《銀河の窓》の意味するところ」 「（『日本近代文学』第49集、日本近代文学会、平5・10）」